

講義名	健康サービス企画運営演習				授業形態	
担当教員	山口 志郎 / 青山 将己	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 1 時限			
		単位数	2	履修開始年次	3 年生	ナンバリング・コード
主題と概要						
高齢化社会が進む現代の日本社会において、健康をキーワードとしたサービス産業はますます発展を遂げている。そうした中、健康サービス分野において、商品やサービスの企画や販売、またイベントの企画運営を行うことが求められており、そうした専門的な人材を育成していくことが急務な課題となっている。そこで、本講義では、ゲスト講師の課題設定や現場での実習を基に、企画運営のノウハウを演習として総合的に学習することを目的とする。						
到達目標						
授業終了後に、その日の感想・質問・ポイント等を小レポート（respon）として提出してもらう。また、授業内外で企画立案を行い、企業の方に対しプレゼンテーションを行う。個人調査として、レポート課題を課す。						
提出課題						
授業終了後に、その日の感想・質問・ポイント等を小レポート（respon）として提出してもらう。また、授業内外で企画立案を行い、企業の方に対しプレゼンテーションを行う。個人調査として、レポート課題を課す。						
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法						
毎回の小レポート課題は、レポート評価をした後、学生にフィードバックし、レポートの書き方やクリティカルシンキングのための考え方を個別または授業全体で解説する。						
評価の基準						
個人調査 30% グループ・プレゼンテーション 30% 平常点（小レポート、授業態度、質問など） 40%						
履修にあたっての注意・助言他						
私語厳禁、提出物の期限厳守、書籍や資料の通読。授業計画は、進行状況により多少前後、変更する場合あり。						
教科書						
.使用しない。						
参考図書						
.なし。						

その他		
プリント資料は必要に応じて配布する。		
授業計画		
1. イントロダクション 2. ゲスト講師 3. グループワーク、企画案作成（1） 4. 企画案作成（2） 5. 企画案作成（3） 6. 学内リハーサル 7. 企業の方へのプレゼンテーション 8. 振り返りと企画案の修正、役割とグループ分け 9. 運営準備（1） 10. 運営準備（2） 11. 運営準備（3）、担当者と最終打ち合わせ 12-14. 運営実習 15. 振り返りとまとめ		
授業形態（アクティブ・ラーニング）		
☐ ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
☐ ウ：ディスカッション、ディベート	☐	エ：グループワーク
☐ オ：プレゼンテーション	☐	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間		
予習：各自次回の講義内容について、インターネットや新聞等を活用しながら自宅学習を実施しておくこと（2時間）。 復習：講義後に、本講義のまとめの部分を学生に提示するため、その部分の復習を毎回自宅で行うこと（2時間）。 課題：授業の最後に、毎回レポート課題を提示し、授業の最後または次回の授業までに提出すること（2時間）。		
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連		
< 学科共通 > ますます高齢化社会が進む現代社会において、子どもから高齢者までの広範囲にわたる健康分野に関する基礎知識を身につけ、健康関連産業やスポーツ関連産業で就業することができる。 健康サービス企画運営演習では、幅広い対象者に対応した健康サービスの専門知識を取得を目的としている。また、健康関連産業やスポーツ関連産業と直接授業内容が関連していることから、DPに貢献し得る科目である。 < スポーツマネジメントコース > 「する」「みる」「ささえる」の視点で、スポーツをキーワードとする関連事業分野、業種において企画運営に携わることができる。 健康サービス企画運営演習では、「する」「みる」「ささえる」の視点を盛り込んだ商品やサービスの企画を学生が考えたり、現場での実習も演習に含まれている。よって、DPに貢献し得る科目である。 健康産業やスポーツ産業などの多様な社会的産業と今後の課題と対応策について、分析、評価、企画を行うことができる。 健康サービスに関連する商品やサービスの企画を通じて、社会課題の解決を目指すことから、DPに貢献し得る科目である。		
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述		
responを活用した参加型授業やQRコードを読み取り、アンケートに答えてもらいながら、学生の理解を深める授業などを展開する。		
実務経験の有無及び活用		
実務経験あり：スポーツ関連企業やスポーツイベント、健康関連産業とのネットワークを活かし、ゲスト講義の依頼や現場実習（フィールドワーク）、担当者へのプレゼンテーション機会を創出する。		
備考		